先行プレスリリース

小林徳三郎（仮称）

コバヤシ トクサブロウ

コドモ ノ ヤウナ コヽロモチ デ 正直ニ 一ッシヤウケンメイ ニ 寫生ショウ ト オモッテ、ワタシ ハ コノ サカナ ヲ カキ マシタ。

小林徳三郎「笊ノ鰺」『子供之友』1941年10月

《鰯》1925年頃　碧南市藤井達吉現代美術館①

2025.11/22㊏ ➡ 2026.1/18㊐

東京ステーションギャラリー

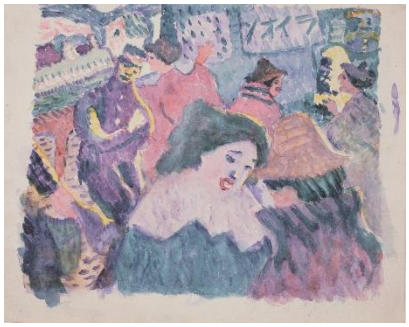
東京都千代田区丸の内1-9-1 JR東京駅 丸の内北口 改札前 TEL.03-3212-2485 https://www.ejrcf.or.jp/gallery/

KOBAYASHI TOKUSABURO

開催概要（予定）

□主　催　｜東京ステーションギャラリー（公益財団法人東日本鉄道文化財団）
□休館日　｜月曜日（ただし11/24、1/12は開館）、11/25、年末年始　□開館時間　｜10：00-18：00（金曜日-20：00）＊入館は開館30分前まで
□当館での開催後、本展は国内数カ所に巡回予定

▸▸▸ 広報お問い合わせ先 ｜ 東京ステーションギャラリー学芸室（羽鳥）TEL. 03-3212-2763 ◂◂◂



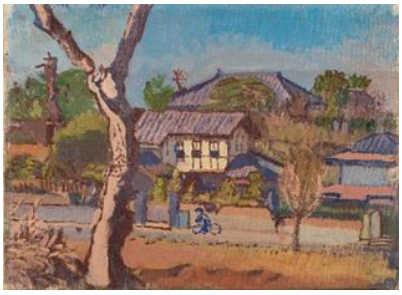
《ダンスホール》1913 年頃　ふくやま美術館②

《花と少年》1931 年　ふくやま美術館③

小林徳三郎（1884-1949）は、日本近代洋画の改革期に活躍した画家です。1909 年に東京美術学校を卒業、若者による先駆的な絵画表現で注目を浴びたフュウザン会（1912-13）で活躍、一時期劇団芸術座の装飾事業に携わり、その後、再興院展洋画部や円鳥会に出品、1923 年からは春陽会を中心に発表を続けました。再興院展や春陽会展に出品した頃の約 10 年間は、鰯や鯵といった魚を数多く描き、周囲から評価を受けました。

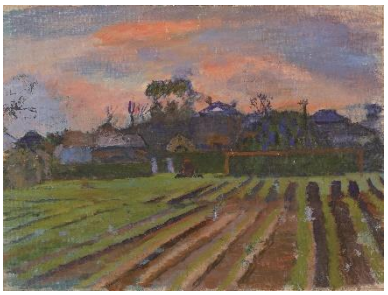
やがて自分の子供たちをモデルにするようになり、静物や風景などの日常的な題材を、時にはマティスを連想させる明るい色や筆遣いで描いています。1939 年頃から江の浦でたびたび海を題材にしますが戦時下ゆえに写生が制限されて断念、1945 年に自宅が戦災にあい箱根強羅に疎開、1948 年に帰京したものの翌年に自宅で急逝しました。1949 年の春陽会展にて遺作室が設けられましたが、美術界での扱いの低さに対し、画家の硲伊之助は「もっと評価されるべき画家」と憤慨したといいます。

本展では、彼をとりまく美術動向も紹介する予定です。写真家、洋画家、文学者、演劇関係者、美術評論家などに認められた画家小林徳三郎が描いた、どこか心惹かれる日常的な光景を、この機会にお楽しみください。



《郊外風景》1926 年　東京ステーションギャラリー④

《お盆の柿》1945 年　ふくやま美術館⑤



《風景》1949 年　ふくやま美術館⑥

…… 鰯でなければ納まらなかった私も、此二三年来少しほぐれて来て、早く云えば少しハイカラになって、西洋風のものでも何でも描き度いようになりました ……　小林徳三郎「作画漫筆」『セレクト』1930 年 6 月

小林徳三郎　（KOBAYASHI TOKUSABURO）

1884(明治 17)	広島県福山町(現在の福山市)に生まれる
1896(明治 29)	私立正則中学校入学。同級生に福原信三(写真家、資生堂創始者)
1909(明治 42)	東京美術学校西洋画科を卒業
1912(明治 45/大正 1)	ヒュウザン会の創立に参加
1913(大正 2)	島村抱月らにより劇団芸術座が結成される。装飾事業に携わる
1919(大正 8)	再興院展洋画部に《鰯》を出品し好評。魚の画題を好んで描く
1922(大正 11)	野島康三(写真家)邸にて個展
1923(大正 12)	萬鐵五郎とともに円鳥会結成に参加。第 1 回春陽会展出品
1924(大正 13)	頌栄高等女学校で美術教育に携わる
1926(大正 15/昭和 1)	春陽会会員推挙
1929(昭和 4)	春陽会展出品画《金魚を見る子供》の絵葉書千枚が売切れに
1933(昭和 8)	肺結核となり療養生活を送る
1939(昭和 14)	江の浦(静岡県)や河口湖に滞在して制作
1944(昭和 19)	新文展招待出品
1945(昭和 20)	空襲で世田谷の自宅焼失。強羅の福原家別荘の一角に疎開
1948(昭和 23)	疎開生活を切り上げ、豊島区に引っ越す
1949(昭和 24)	心臓麻痺のため自宅で亡くなる

《婦人像》1945 年頃　ふくやま美術館⑦